

受講番号 18074 学校名 中川内中学校 氏名 伊吹 香絵

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 3 名
 科目名 2年生 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 Sunshine English Course 2(開隆堂)

クラスの様子・特徴

男子1名、女子2名のクラスである。3人とも仲が良く、明るい雰囲気です。授業を受けている。ただ、気分の乗らない生徒のいるときは、その雰囲気に引っ張られてしまうことがある。チャンツや単語ビンゴによく取り組み、声を出すことや音読もできている。

問題の確定

英文の意味を正確に読みとったり、英語を正しい語順に直すことができない。また、正確に書くことが苦手である。

予備調査

A 授業の観察

生徒は音読や声を出すことにあまり抵抗がない。全員で声を出して音読ができる。書いたり、話したりする活動に関してはあまり積極的でない。

B 生徒による授業評価

英語の授業で身につけたい力としては英語を読む力、書く力、会話をする力を挙げている。授業の中で難しいと感じることは発音、語順、ALTの話の内容を理解することを挙げている。楽しく、わかりやすく飽きない授業を生徒は望んでいる。

C 学力データ

CRT(5月1日実施)の結果、「英文を正しく日本語に訳すこと」と、「正しい語順で文を書くこと」が3人とも十分でないことがわかった。内容別では「英文の内容を正しく理解すること」と「文字の知識を身につけること」の得点が全国と比較して低い。

リサーチ・クエスチョン

語彙や語順の定着の不十分な集団に語彙や基本的な文法を定着させ、表現力(書く力)を伸ばすにはどのような指導がいいのか。

仮説・実践・検証

仮説1

チャンツやビンゴなどの活動を継続して行えば、楽しく学びながら語彙力や表現力を身につけることができるだろう。

実践1

warm-upとして授業の度にビンゴやチャンツを行い、雰囲気を盛り上げた。ビンゴを行う際にも、単語の意味などもチェックさせながら、ゲームを行った。チャンツも生徒が覚えてしまいうらいまで繰り返し行った。

検証1

生徒は楽しみながらビンゴやチャンツに積極的に取り組んでいる。ビンゴは5回同じものを繰り返し行った。4回目くらいには全員の生徒が「単語や重要表現を覚えることができた」と感じ、これらの活動が「単語や重要表現を覚えるのに役立っている」と回答している。単語テストや普段の授業観察から、ビンゴで繰り返し学習した単語や、チャンツで扱った表現を生徒はよく覚えていることがわかった。

仮説2

教科書の本文を学習する際に、英語の正しい語順を意識させ、意味理解を促していけば、正確に書く手助けとなるだろう。

実践2

教科書の本文の内容を確認する際にスラッシュリーディングを取り入れた。文章を読むときにスラッシュしたかたまりごとに訳させ、語順を意識させた。また、文章を語順のまま、意味のかたまりごとに理解させるように指導を継続的に行った。

検証2

生徒にとってはこの活動はあまり楽しいものではないが、だいたい積極的に取り組んでいる。「英語の語順を身につけたり、英文を書いたり、理解したりするのに役立つ役立っている」と生徒は感じている。定期テストでの語順の並べ替え問題の正答率が上がった。また、並べ替え問題に対する生徒の苦手意識も少なくなってきた。ALTと話すときも、以前は単語で話していたが、英文で話せるようになってきた。

仮説3

新しい文法事項を用いて英文を書いたり、まとまりのある文章を書いたりしたものを、生徒同士で直していけば、表現の正確さを増すだろう。

実践3

新しい文法事項を用いた文章や、まとまりのある文章を書く課題を頻繁に与えた。書いたものを生徒同士で文法や内容をチェックさせ、もう一度書き直させた。自分達で書いたまとまりのある文章をさらによくするために、全体の見守りの中で、一人ずつの作文に対しALTからアドバイスをもらった(ピアライティング)。それぞれの作文はALTとのTTの際にスピーチして発表する機会を持った。

検証3

アンケートの結果から、生徒はおおむねこの活動を楽しく、積極的に取り組んでいることがわかる。「英語の表現を身につけたり、まとまりのある文章を書くのもこの活動がだいたい役に立つ」と回答している。友達同士で英文を読みあうので、読み手を意識して英文を考えたり、長く複雑な構造の文章を書いたりするようになってきた。また、英作文の中の致命的な間違いの数も減ってきた。

研究の成果

このリサーチの実施前は、英文を書かせる機会が少なく、生徒の書いた英作文も短かった。その原因は語彙や表現、語順の指導が十分でなかったことが考えられる。しかし、アクションリサーチに取り組むことになり、仮説1ではビンゴやチャンツで楽しみながら語彙や重要表現を増やすことができた。仮説2ではスラッシュリーディングの活動を通じて、英文の構造の理解や語順の習得が容易になってきているようである。また、仮説3では英作文の活動では読み手を意識して英文を作ることができるようになってきた。語順の間違いも減ってきている。生徒たちは友達の英文を読むことも楽しみにしており、授業が活性化した。

今後の授業改善の課題

仮説1については語彙の定着を調べるために、単語テストを行ったが、以前の状態と正確に比較することができなかった。仮説2ではスラッシュリーディングの効果を定期テストの並べ替え問題以外で検証することができなかった。仮説3に関しては、まとまった英文を書かせてそれを評価する機会が少ない。今後はそれぞれの仮説を検証する機会を増やし、生徒の成長を評価できる体制を作っていきたい。